

一般社団法人日本有機資源協会 会員各位

JORA バイオマス通信 Vol.12

一般社団法人日本有機資源協会がお届けするバイオマスの利活用に関する最新情報です



バイオマスくん
©ochappi/SPiRiTS

<今回のニューストピックス>

行事予定 P.2

・JORA 各種研修のご案内

バイオマス活用アドバイザーのご紹介 P.3

沖縄県在住バイオマス活用アドバイザー 奈良 幹 氏
「明るく 元気に『うれしい たのしい おいしい 野菜』づくり」



注目のバイオマスタウンご紹介 P.4

神奈川県三浦市
「三浦発のゼロエミッション化ビジネス」



今、注目のバイオマス関連企業をご紹介 P.5

三井造船株式会社
「地球環境の保全と地域の資源循環を第一に考えた環境プラント」



バイオマスマーク取得企業をご紹介 P.6

カルピス株式会社
「希釈して飲むタイプの『カルピス』が新容器『ピースボトル』で新登場！」



その他 P.8

- ・日本バイオマス製品推進協議会平成24年度講演会・交流会のご案内
- ・第7回リン資源リサイクルシンポジウム開催のご案内
- ・バイオマス活用推進計画の策定状況
- ・JORA バイオマス通信 (Vol.1~11) のバックナンバーについて

<行事予定>

■JORA 各種研修のご案内

・平成24年8月6日(月)～8日(水) 第11回バイオマス活用総合講座

再生可能エネルギーとしても注目されているバイオマス活用全般についての知識の習得を目的とした研修を開催します。研修修了者には「JORAバイオマスアドバイザー(初級)」の修了証を交付するとともに「バイオマス活用アドバイザー」「コンポスト生産管理者」「メタン発酵技術アドバイザー」の各研修の受講資格を付与します。

◇開催場所: 馬事畜産会館2階会議室(東京都中央区新川2-6-16)

◇受講料: 会員 60,000円、一般 75,000円

◇申込期限: 平成24年8月1日(水)

◇その他詳細は、ホームページをご覧ください。(http://www.jora.jp/txt/jinzaikusei/index.html#1)

・平成24年度バイオマス活用アドバイザー養成研修

今年度も人材育成事業の一環として、バイオマスの賦存量及び活用量の把握手法、製品やエネルギー等多様な変換・利用方法、農林水産業をはじめとする地域の様々な産業との連携等、多方面にわたる豊富な知見を有し、地域の実状を踏まえて関係者間の調整や事業化に向けた支援等により「現場を動かしていく」人材である「バイオマス活用アドバイザー」の養成研修を実施いたします。

今般、受講生並びに現地研修先(バイオマス活用推進計画の策定を検討されている自治体)を募集いたします。

◇受講生募集のご案内 (集合研修 平成24年9月12日(水)～14日(金))

(現地研修 平成24年10月～12月(連続する4日間))

◇現地研修実地自治体募集のご案内(現地研修 平成24年10月～12月(連続する4日間))

◇申込期限: 平成24年8月31日(金)

◇その他詳細は、ホームページをご覧ください。

【受講生 募集案内】(http://jora.smallworld.jp/press/jora_pdf_files/201206141343.pdf)

【現地研修地方自治体 募集案内】(http://jora.smallworld.jp/press/jora_pdf_files/20120614144.pdf)

・その他研修のご案内(予定)

研修名	日程予定
第13回コンポスト生産管理者養成研修	平成24年12月上旬(連続3日間)
平成24年度コンポスト生産管理者フォローアップ研修	平成25年1月中旬～下旬(1日)
第2回メタン発酵技術アドバイザー養成研修	平成24年10月中旬～11月(連続3日間)
第2回バイオディーゼル燃料基礎講座	平成24年9月下旬～10月(連続2日間)
第2回バイオディーゼル燃料生産・利用管理者養成研修	平成25年2月(連続3日間)
平成24年度バイオマス活用アドバイザーフォローアップ研修	調整中
第14回国内視察研修	調整中



沖縄県在住のバイオマス活用アドバイザーのご紹介 「明るく 元気に『うれしい たのしい おいしい 野菜』 づくり」 奈良 幹 氏



■略歴:

- 1998年 宇都宮大学農学部森林科学科 卒業
- 1998年～2008年 株式会社プレック研究所 在籍
- 2008年～2009年 特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム 在籍
- 2009年 バイオマスタウンアドバイザー 取得
- 2009年 沖縄県北部農林水産振興センター森林整備課 在籍
- 2010年10月～ やんばる・大宜味村にて新規就農。出荷グループ「沖縄畑人くらぶ※」に所属。

■就農までの経緯:

大学卒業後、自然環境の保全や利活用に係るシンクタンクに10年勤め、また、バイオマス利活用に関する普及啓発に携わっていくうちに、人々の生活や経済活動の根幹を為す第一次産業を、なかでも「食」をメインとした「農業」を生業としたいと考えるようになった。

そして、日本各地を見聞した経験から、日本のなかで、亜熱帯気候という特異な気候とその気候下に成立する独特の自然環境に惹かれ、豊かな自然環境が残る沖縄本島北部「やんばる」にて新規就農に至った。

■日常の活動などについて:

沖縄の農業は、冬～春において、施設栽培でボイラーによる加温なしで、さやいんげんやゴーヤー、キュウリが栽培でき、露地でもカボチャやジャガイモが1、2月頃から出荷できる。夏は島野菜とマンゴーやパインといった熱帯果樹がメインとなる。ただし、夏は台風の襲来、冬は日照不足や低温になり易く、天候の影響により安定生産が難しい。

私自身は、冬春作のさやいんげん、夏作の島オクラをメインに、30～40品目を栽培する野菜農家で、いままで自然環境に携わる経験から、できる限り周辺の自然環境や畑に負荷をかけずに営農したいため、農薬／化学合成肥料ともに不使用による栽培を行っている。

冬でも霜が降りることがない沖縄において、無農薬栽培は、日々、虫と草との闘いである。種蒔き、収穫といった農家の醍醐味のほかに、虫取り、草取り、施肥の繰り返しである。



■今後の活動目標について:

学生時代、化学調味料／添加物一切なし、何から何まで手作りする飲食店でアルバイトをしていた。そこでよく食べていた、いろいろな野菜を使ったスパイシーなカレー。目指している農業の原点である。

栽培の目標は、年間通じて、いつでも美味しいカレーが作れるよう、安心・安全で、「うれしい たのしい おいしい」野菜を提供できること。もちろん、可能な限りカレーに必要なスパイスも栽培！また、現在、「やんばる畑人(はるさー)プロジェクト」という、地域が一体となって「やんばるは美味しい」をもとに、「食」で地域を豊かにするプロジェクトに携わっている。このプロジェクトは、畑人と飲食店、加工業者、宿泊施設などが手を取り合って、地域の食生活を支えることを目指し、また、「やんばる」を訪れる人々に「やんばる」流のおもてなしを提供していくことである。このプロジェクトの一端を担うことで、県外出身を受入れていただいた「やんばる」という地域に少しでも貢献し、「農」の立場から、いつまでも魅力溢れる「やんばる」という地域を創ることに携わっていくことが目標である。

** やんばる畑人プロジェクト **

詳細は <http://haruser.jp/> をご参照ください。

※沖縄畑人くらぶ

「うれしい たのしい おいしい野菜づくり」を基本理念に経営者の資質向上、栽培技術向上を目的とした活動を行っている任意団体の出荷グループ。新規就農希望者が日常的に交流・情報交換できる場の提供も行っている。平成24年度は、「特別栽培農産物」を目指した栽培技術の習得を目指して、月次で勉強会を行っている。



注目のバイオマスタウンご紹介 ～神奈川県三浦市～編 「三浦発のゼロエミッション化ビジネス」



市章：『みうら』の『み』を
鯖 2 尾、大根 2 本で図案
化したもの。生産都市三浦
を象徴しています。

市役所在地： 神奈川県三浦市城山町 1 番 1 号
TEL: 046-882-1111 FAX: 046-882-5010
市役所 URL: <http://www.city.miura.kanagawa.jp/>
人口: 47,695 人 (男性 22,963 人、女性 24,732 人、17,893 世帯 / 平成 24 年 1 月 1 日現在)

三浦市について： 三浦市は、神奈川県三浦半島の南端に位置し、三方を海に囲まれ、温暖な気候による、ダイコン、キャベツ、スイカ、カボチャなどの露地栽培が盛んな地域です。また、古くから遠洋マグロ漁など漁業も盛んで、主に首都圏生活者を対象とした日帰り観光の3つを基幹産業としてきました。近年は、「1次×2次×3次＝6次経済」というコンセプトにより、別々の産業としての取組から、ライフスタイルとしての複合的な提案・取組を進めています。

■バイオマスの利活用について

対象バイオマス： 農作物収穫残渣、生し尿、浄化槽汚泥、公共下水道汚泥、水産加工残渣など
成果物： メタンガス、堆肥
利活用施設： 三浦バイオマスセンター(MKE BIMA ステーション三浦)(施設内利用)、市内農地など
事業実施主体： 三浦地域資源ユーズ株式会社、三浦市



M バイオたいひくん

利活用の状況： 三浦地域資源ユーズ株式会社が地域バイオマス利活用交付金等を活用して整備した三浦バイオマスセンターの稼働により三浦市のバイオマス利活用は新たな局面を迎えました。

同社は、三浦市、三浦商工会議所、三浦市農業協同組合、みうら漁業協同組合など市内の団体や応援くださっている市内外の企業、全28社の出資による株式会社です。バイオマスタウン構想と地域再生計画にも掲げた6次経済の構築を目的に平成18年7月に設立されました。また、同社が整備、運営している三浦バイオマスセンターは、「堆肥」の生産・農地(農家)への還元という地域における資源循環の要であると同時にメタン発酵を行う国内唯一の民間企業によるし尿処理施設という性格を併せ持つ施設です。

■バイオマス利活用の今後の取組について

バイオマスタウン構想の策定時に、どうしても解決しなければならないいくつかの課題がありました。施設の完成により解決された課題もありますが、環境への負荷を低減し、持続可能な社会の実現には農業者をはじめ地域の人たちの理解と協力が欠かせません。東日本大震災をはじめ農業、漁業など本市の基幹産業を取り巻く環境には大変厳しいものがありますが、今後も行政と民間が協働して持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいきます。

■ご担当者のコメント

三浦市経済振興部もてなし総務室 君島 篤 氏

三浦バイオマスセンターでは、小規模ながらもバイオガス発電がされています。近くには風力発電風車が2基稼働しています。更に神奈川県では太陽光発電の取組が加速しています。再生可能エネルギーの聖地として多くの人たちに訪れて頂くことを願っています。



今、注目のバイオマス関連企業をご紹介 ～三井造船株式会社～編 「地球環境の保全と地域の資源循環を第一に考えた環境プラント」

企業概要

社名： 三井造船株式会社
 住所： 〒104-8439 東京都中央区築地5丁目6番4号
 連絡先： 三井造船環境エンジニアリング株式会社 営業部
 TEL:043-351-9163 FAX:043-351-9179
 HP: <http://www.mes.co.jp/>
 資本金： 443億8,495万円
 事業内容： 船舶・海洋、動力エネルギー、環境・リサイクル、物流システム、先進機械システム、IT・サービス関連、社会インフラ、プラントエンジニアリング

■バイオマス関連事業について<主な納入事例>



【バイオガスプラント】

家庭や事務所から集められた生ごみをメタン発酵により電気・熱に変換してエネルギー利用を図るとともに発酵後の生ごみを堆肥として利用するプラント。

写真は北海道滝川市に建設した生ごみのバイオガスプラントで、国内最大級である。



【バイオガスプラント(地域資源循環システム「おおき循環センター」)】

家庭や事業所から集められた生ごみ・し尿及び浄化槽汚泥をメタン発酵により電気としてエネルギー利用し、発酵後の消化液は水稻や麦の有機液肥として使用。

写真は福岡県大木町に建設したプラント。



【焼酎廃液リサイクルプラント】

焼酎製造工程で発生する蒸留残渣を固液分離・濃縮・乾燥・浄化することで、安全な高品質な飼料を製造するプラント。

写真は鹿児島県曾於市に建設したプラント。



【生ごみ飼料・肥料化プラント「テンプレー21」】

生ごみなどの有機性廃棄物を「てんぷら」の原理を用いて良質な肥・飼料原料に再生する装置及びその製品。

写真は札幌市に建設したプラント。乾燥処理された商品は、配合飼料原料や肥料原料として流通している。

■バイオマス関連事業での今後の目標と課題について

三井造船グループは、これからも新エネルギーとしてのバイオマス利用促進の役割を担うとともに、石油代替エネルギーとして二酸化炭素削減に貢献し、国のエネルギー政策である新エネルギー活用方針に沿った循環型社会形成に貢献します。



バイオマスマーク取得企業をご紹介 ～カルピス株式会社～編 「希釈して飲むタイプの『カルピス』が新容器『ピースボトル』で新登場！」

社名： カルピス株式会社
 住所： 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南2-4-1
 HP: <http://www.calpis.co.jp/>
 お問い合わせ先： TEL: 0210-378090
 事業内容： 家庭用、業務用飲料事業、バターなどの乳製品事業、
 乳酸菌・生理活性ペプチドなどの機能性素材事業、家畜用飼料
 などの微生物活用事業
 資本金： 130億5675万円
 創業： 1917年10月
 取得製品： 「カルピス」(希釈タイプ)容器
 取得時期： 2011年12月7日
 語る人： カルピス株式会社 コンク・ギフト事業部 統括マネージャー ^{へんみ} 逸見 ^{まさる} 将



■商品の特長:

「カルピス」の新容器は3つの特長があります。

1つ目は「おいしさ保持力」を従来容器から向上させました。「カルピス」はしぼったままの国産生乳から脂肪分を取り除き、90年以上大事に受け継いできた独自の乳酸菌によりじっくり発酵させるという自然製法でつくられます。この自然製法から生まれる、爽やかで芳醇な香りや上質な酸味が「カルピス」のおいしさのひみつです。この自然の恵みから生まれた繊細なおいしさを、更に良い状態でお客様にお届けできるようになりました。

2つ目は使い勝手の向上を図りました。くびれのあるボトルシェイプはお子様、手の小さな女性、ご高齢の方にも握りやすく注ぎやすい形状です。また、専用キャップは量の調節がしやすく、液切れのよい新形状キャップを開発しました。色々な濃さで楽しむ、水で割るだけでなく、カキ氷やヨーグルトのソースなどにも使える「カルピス」の良さを、新容器によって更に実感頂けるようになりました。

3つ目は環境性能の向上を図りました。ボトル、キャップ、ラベルを同一素材のプラスチックとすることで分別の手間を省き、リサイクルしやすくしました。また、新素材であるバイオポリエチレンをボトルの一部に採用することによって、地球温暖化ガスの減少に貢献します。

■開発の背景:

「カルピス」は日本初の乳酸菌飲料として1919年7月7日に発売されて以来、90年以上に亘り、皆様に飲み継がれてきました。商品の長い歴史の中で、水玉包装紙で包まれたビン容器で販売されている期間が約70年、その後1995年に軽くてコンパクトな紙パックへと容器改訂を行いました。そして17年ぶりに「カルピス」は容器の全面刷新を行いました。長年親しまれてきた水玉の包装紙に包まれたビンのイメージを活かすことで、「これまでのように愛着を持っていただきながら、よりおいしく、より快適にお飲みいただき、環境にも配慮すること」を目標に掲げ、日々頂くお客様の声をもとに、新しいパッケージの検討を2年以上の歳月をかけて進めてきました。

■バイオマスマーク取得の理由:

「カルピス」は弊社の中核商品です。この「カルピス」にバイオマスマークの表示や、リーフレット等で認知拡大を行わせて頂くことで、バイオマスの認知向上と利活用の拡大に微力ながら貢献させて頂き、地球環境保全に少しでもお役立ちしたいと考えました。「カルピス」は、自然の恵みなくして生まれません。この大事な自然を守り、いつまでも、おいしい「カルピス」をご提供していきたいと考えています。また、「カルピス」の”水などで割って飲むという商品形態”は、輸送効率や消費単位容量あたりの包材量も軽減できるので、今の時代にぴったりのエコなスタイルの飲料ではないかとも考えています。



■今後の展開について:

今後も引続き技術革新を推進し、バイオマス度を更に高められる素材の開発や探索、そして使用樹脂量の低減を図っていきたくと考えています。また併せて、製造工場をはじめ、各事業所の環境負荷低減を鋭意進めていきます。

採用実績: 全国の量販店、ドラッグストア、コンビニエンスストア



< 店頭陳列の様子 >



■日本バイオマス製品推進協議会

平成24年7月2日(月) 平成24年度講演会、交換会

- ◇開催時間: 講演会:14時45分~17時00分 / 意見交換・交流会:17時30分~19時00分
 - ◇開催場所: 馬事畜産会館2階会議室(東京都中央区新川2-6-16)
 - ◇参加費: 日本バイオマス製品推進協議会 会員1名無料、2名から2,000円、一般5,000円
上記金額には、交流会費が含まれております。
 - ◇内容: 講演①「米国バイオプラ・ベンチャー企業のチャレンジ精神」
バイオロジック(合同会社)アジア副代表 岡本哲哉 氏
講演②「驚異の新素材セルロースナノファイバー」
京大大学生存圏研究所教授 矢野裕之 氏
- ◇その他詳細は、日本バイオマス製品推進協議会ホームページをご覧ください。

■リン資源リサイクル推進協議会

平成24年7月25日(水) 第7回リン資源リサイクルシンポジウム開催のご案内
～リン資源の確保と管理に関する戦略提言に向けて～

- ◇開催時間: シンポジウム :13時30分~17時00分 / 意見交換・交流会:17時30分~19時30分
 - ◇開催場所: 神戸国際展示場(兵庫県神戸市中央区港島中町6-11-1)
 - ◇参加費: シンポジウム : リン資源リサイクル推進協議会 会員無料、一般4,000円
意見交換・交流会 : リン資源リサイクル推進協議会 会員、一般ともに4,000円
 - ◇内容: 講演①「わが国におけるリン資源の確保と管理のあり方」(仮題)
農林水産省 生産局農産部 技術普及課 生産資材対策室 室長 小川 祥直 氏
講演②「リンのマテリアルフローとリン資源に対する海外の関心」
東北大学大学院 工学研究科 准教授 松八重 一代 氏
講演③「リン酸、リン酸塩の工業分野での利用」
原題:「Industrial Use of Phosphorus」
Dr. Konstantin Panagiotidis(コンスタンチン・パナギオティディス 氏)
Business Unit Bekaphos Research & Development
ドイツ BK Giulini GmbH(ビーケーギューリニ社)
総合討論「世界に向けたわが国のリン資源リサイクルの取組」
- ◇その他詳細は、リン資源リサイクル推進協議会ホームページをご覧ください。

■バイオマス活用推進計画の策定状況

【都道府県バイオマス活用推進計画】

【市町村バイオマス活用推進計画】

都道府県名	計画公表年月日
千葉県	平成23年 8月 2日
青森県	平成23年12月22日
鹿児島県	平成24年 1月27日
群馬県	平成24年 3月23日
熊本県	平成24年 3月30日
静岡県	平成24年 3月30日
埼玉県	平成24年 4月 1日
愛媛県	平成24年 6月11日

市町村名	計画公表年月日
栃木県那須町	平成23年 3月 1日
京都府京都市	平成23年 4月 1日
香川県三豊市	平成23年 9月30日
愛媛県大洲市	平成24年 3月26日
兵庫県朝来市	平成24年 3月30日
静岡県湖西市	平成24年 3月30日
新潟県糸魚川市	平成24年 3月30日
宮崎県西都市	平成24年 4月 1日
岩手県紫波町	平成24年 4月 4日
福岡県糸島市	平成24年 4月12日

●●● 上記のバイオマス活用推進計画書は、
JORAホームページに掲載しております。●●●

■JORAバイオマス通信(Vol.1~11)のバックナンバーについて

JORAバイオマス通信のバックナンバーをご用意しておりますので、必要な方は下記までご連絡ください。

＜内容に関するお問い合わせ先＞
一般社団法人日本有機資源協会 嶋本、出越
〒104-0033 東京都中央区新川 2-6-16 馬事畜産会館 401
TEL: 03-3297-5618/FAX: 03-3297-5619/E-mail: shimamoto@jora.jp/HP: <http://www.jora.jp/>

